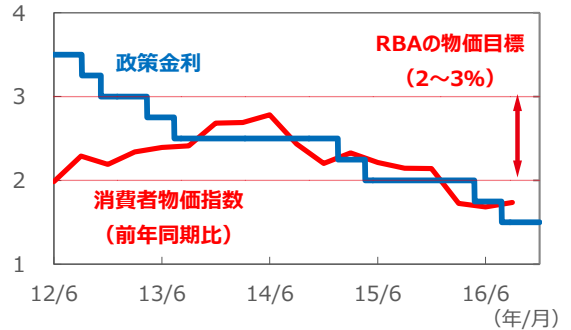


**今日のトピック** 豪州の金融政策は5会合連続の据え置き（2017年2月）  
**景気に対する評価が前進**

**ポイント1** 史上最低の1.5%を維持  
国内景気は底堅く推移

- 豪州準備銀行（RBA）は2月7日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置くことを決定しました。ブルームバーグ社の集計によれば、対象28名のエコノミストのうち27名が据え置き、残り1名が利下げを予想していました。
- RBAの注視する消費者物価上昇率は目標値の下限である+2%を下回っているものの、海外経済の回復が明確になってきたこと、資源価格が底入れしたことなどが、据え置きの理由と考えられます。

(%) 消費者物価指数と政策金利



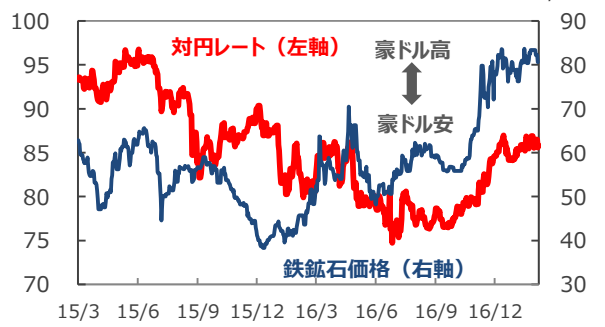
(注) 消費者物価指数は2012年4-6月期～2016年10-12月期。消費者物価指数は異常値をつけた項目を除外したトリム平均値。政策金利は2012年6月30日～2017年2月7日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ポイント2** 当面は現状維持の見通し  
声明文は前回とほぼ同じ内容

- 今回の声明文の特徴は、世界経済、ひいては国内景気の見方が以前に比べ前向きになったことです。国内経済については、「16年7-9月期のマイナス成長は天災など一時的な要因によるところが大きく、今後は資源輸出の拡大、資源セクターの設備投資の下げ止まりなどから、上向く」と予想しています。
- 先行きの金融政策についての言及は特にありませんでしたが、物価見通しがほとんど変わっていないことなどから、政策スタンスは中立を維持しました。

(円/豪ドル) 豪ドルの対円レートと鉄鉱石価格 (米ドル/トン)



(注) データ期間は為替レートが2015年3月2日～2017年2月7日。2017年2月7日は日本時間14時時点のレート。鉄鉱石が2015年3月2日～2017年2月6日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**今後の展開** 豪ドルは底堅い展開へ

- 豪ドルの対円相場は、中国での需給改善による鉄鉱石や石炭等の資源価格の持ち直しを受け、昨年6月下旬を当面の底に戻り歩調を辿っています。ただ、今回の会合直後の豪ドルは、金利据え置きの決定が市場の予想通りだったことから、小動きにとどまりました。
- 今後についても、①トランプ米大統領の積極財政等を支えに世界経済の拡大が続くと予想される、②石油や鉄鉱石、石炭といった資源価格が持ち直してきた、③RBAの金融政策スタンスが中立を維持する見通し等を踏まえると、豪ドルの対円相場は底堅く推移する可能性が高いと考えられます。

**ここもチェック!** 2017年01月27日 資源価格上昇の恩恵を受取る豪州経済（2017年1月）  
2017年01月17日 アジア・オセアニアの株式市場（2017年1月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。